

# 池中だより

11月号

平成25年11月1日

豊島区立池袋中学校

## 【教育目標】

- すすんで学び実践する人
- 感謝する心を持ち責任を果たす人
- 心身ともに健康な人

## さらば因習 引き継げ伝統

校長 堀 利光

この一カ月を振り返ると、いろいろな行事を通してそれぞれの力を発揮すると同時に、池中の伝統を守り引き継いでいこうという強い思いが感じられました。

10月13日（日曜日）の「スポーツの集い」では、障害者の方の健康増進とリフレッシュに役立てるとともに、参加者同士のコミュニケーションによって障害に対する理解を深めることを目的として毎年本校を会場として行われています。そして、ボランティアを募集しているのですが、今年も40名以上の生徒が手を挙げてくれました。この中には、池袋第二小学校の児童と吹奏楽部の生徒が含まれています。ボランティアの役割として、誘導介助・用具の準備・模範演技・競技参加等があるのですが、みんなで楽しいひとときを過ごすことができました。

翌14日（月曜日）には、国立競技場で「豊島区中学校陸上競技大会」が行われました。これも約40名の生徒が選手・係として参加しました。メダル獲得や入賞、自己ベストを記録する選手、これらに届かなかったとしても達成感や充実感を感じた人が多かったに違いありません。

同日の「池本商人まつり」で、昨日に引き続いて吹奏楽部が演奏を行っています。昨日は校庭、そして今日は池袋本町公園とどちらも野外演奏でした。条件が必ずしも良いとは言えない中での演奏でしたが、聴衆を引きつけるすばらしいものでした。

そして、26日（土曜日）の学習発表会（舞台の部）です。台風が二つ重なり、そのスピードや進路が予想しずらく、予定通り開催するか、繰り上げ、繰り下げ措置をするか、延期するか考えました。そして、前日に予定通り行うことを決定させていただきました。当日は、閉会まで雨が降っていてご不便をおかけしましたが、生徒はみんな「今日のために一生懸命練習をしてきた。それぞれ全力で発表し、成功させよう」という気持ちで臨みました。

生徒会の発表は、池袋中学校の標準服や体育着の変遷、部活動等を少ない資料から丹念に拾い上げよく調べてありました。

文芸部の発表は、三冊の本を取り上げて、しっかりした声での朗読。理解を助ける動きをつけたセリフや絵・イラスト等も駆使して、思わず読んでみたいとみんなに思わせる発表でした。

科学部の発表は、自由研究として「紅茶にレモンを入れると色が薄くなるのはなぜか」をテーマに、仮説を立て、検証し、結論を導き出すという一連の流れをコンパクトにわかりやすく発表しました。

2学年の総合的な学習の発表・合唱は、9月の職場体験を体験先ごとに発表し、来年度行う1年生にとっても大変参考になったのではないのでしょうか。合唱は、三つの学年のトップとして注目される中、伸び伸びとした歌声を響かせました。

休憩をはさみ、1学年の総合的な学習の発表・合唱は、地域調べを四つのテーマごとに発表しました。同じ区内のことでも知らないことがまだまだたくさんあり、毎日乗降している北池袋駅のことなど大変参考になりました。

3学年の総合的な学習の発表・合唱は、中学校入学から今までの歩みを思い出すと同時にこれからの自分たちについての決意がこめられていました。合唱は「青葉の歌」。最高学年としてのプライドにかけてもという思いから迫力ある合唱となりました。午後の部の吹奏楽部の演奏は、東京都中学校吹奏楽部コンクールで演奏した「元禄」や「ボカロメドレー」など多彩な曲を披露しました。

冒頭に掲げた「因習」とは、昔から続いている習慣のうち、特に現在に弊害を残すしきたりのことです。上級生だから標準服を着崩そうとか遅刻ぎりぎりに登校しようなどはこれにあたり、「伝統」とは、一朝一夕には築けるものではなく、ボランティア活動に自発的に参加したり、3年生が「青葉の歌」はしっかり歌おうといった自然な行動や意識がこの言葉にあてはまるのではないのでしょうか。

